

## 博物館だよりNo. 78

みなさん、こんにちは。気持ちのいい天気が続いています。街を歩く人々の服装も半そでが増え、制服も白さが目立つようになってきました。

### 1. 今年のトライやるウィークも終了

6月3日(金)トライやるウィークの最終日、生徒たちもすっかり仕事に慣れ、それぞれの分野で達成感を味わい、各家庭に帰っていきました。明日の月曜日、生徒たちはどんな土産話を各事業所から学校に持って帰るのでしょうか。自分の体験したことと友だちの体験を比べてみたり、自慢があったり、お互いの体験を認め合うような仲間作りをしてほしいですね。

最終日の午前中、博物館では当初の予定を少し変更して、武家屋敷めぐりと発掘調査現場の見学を実施しました。山下館長から手渡された一枚のプリントは、「文久年間(1860年代)の武家屋敷跡の地図」でした。「この地図と今の地形をよく観察して、今、その場所は何になっているのか探してみなさい。」と館長。子どもたちは、マークされた文久年間の武家屋敷が現在はどこになるのか、どんな家が建っているのかを探して歩きます。

### 2. さあ、武家屋敷跡を探しに！



さあ、出発！



あった！地図と同じ名前の家があるよ。

マークされた場所を探してみると、大きな家のあったところは駐車場になっていたり、ビルが建っていたり、140年前の地図に書かれた一軒ずつの家の大きさにも驚きました。

武家屋敷を探しながら、現在、博物館が発掘調査している現場の見学も合わせて行いました。初めて訪れる発掘調査現場に生徒たちも興味津々の様子で、前日に水洗いした出土遺物が出てきた地面をじっくりと観察していました。

### 山下町武家屋敷跡



山下町武家屋敷跡



もともと「沼」だったようで泥のような土です。「穴」は何だろう？

### 本町屋跡



本町町屋跡



古銭(寛永通宝)も出てきた

## 鷹匠町武家屋敷跡



鷹匠町武家屋敷跡  
んだ！



昔の湯たんぽが出てきた



こうやって細かいところは手で掘る

3ヶ所の発掘調査現場を回っていくと、昔々そこが沼だったり、川の近くだったり、また明石川の土手の近くだったり、土の色の違いがよくわかりました。発掘調査では、最初は大きな機械で掘るのですが、細かいところを手作業で掘っている人たちの姿は、中学生には驚きだったようです。自分たちのくらしている身近な場所で、さまざまな仕事があるということを知ってくれたことでしょう。

それにしても、文久年間の地図と今の明石の様子を比べてみると、せまい土地にたくさんのビルや家が建つものですね。人もモノも増え続け、いったいどこにたどり着くのでしょうか。200年、400年先の人たちは、21世紀の生活の有様を発掘する日が来るのでしょうか？その時、何を見つけ、何を考えるのか 不思議ですね。

明石市立文化博物館  
編集：永田 浩史